

1年 国語科学習指導案

日 時 平成27年11月6日(金) 第5校時
場 所 1年教室

- 1 単元名 こえに だして よもう
- 2 教材名 「くじらぐも」 中川李枝子作
- 3 指導の立場

(1) 教材について

本教材は、体育の時間にくじらの形をした雲が現れ、1年2組の子ども達を乗せて空の旅に連れていってくれる物語である。体育の時間という身近な現実から、ふいと幻想の世界に入り、想像の世界で十分に遊んで、また、現実の世界に戻ってくるという児童が安心して空想の世界で遊ぶことのできる作品である。場面ごとに描かれている柿本幸造の美しい挿絵が、さらにそれを後押ししてくれる。言葉(叙述)をもとに場面の様子を想像して声に出して読み、声に出して読んでは想像を深めるという音読活動を通して、ファンタジーの世界を楽しませたい。

また、作者の他の作品を並行読書し、第三次に自分のおすすめの作品の好きなところを同学年の子に音読して紹介するという、単元を貫く言語活動を位置付けることで、目的意識をもって意欲的に学習や読書に取り組めるようにしたい。

(2) 児童の実態

男子12名、女子11名、計23名の学級である。物語教材の学習では、挿絵から場面の様子を読み取り、登場人物の台詞を想像しながら音読したり、言葉のリズムや繰り返される言葉を楽しみ、主人公の行動を動作化して、場面の様子や主人公の気持ちを想像して音読したりしてきた。

仲間と声を合わせて読んだり、動作化をして読んだりする音読は、どの児童も楽しんで行ったが、言葉のまとまりとして読めない児童や、音読できても場面の様子が読み取れない児童がいる。

場面の様子、会話文の主語、登場人物の行動を問うレディネステストでは、

様子を読み取る	○… 91% ×… 9%	前後の文から、誰の 会話文か主語を読み 取る	○… 43% △… 35% ×… 22%	行動を読み取る	○… 87% ×… 13%
---------	-----------------	------------------------------	----------------------------	---------	------------------

この結果から、児童の中で、様子は分かるが会話や行動がとらえられないA児、なんとなく様子は分かるが問題の答え方や意味が分からないB児、物語文や発問の意味が分からないC児という特に個別の支援が必要な児童が3名いることが分かった。また、全体でみると、前後の文から、会話文の人物を特定する問題が難しかった。完答は43%で、根拠となる文が分かっても、断定できない児童が35%、全く分からない児童が22%いた。

本単元では、前後の文を元に会話文の主語をおさえて役割読みをしたり、挿絵や動作化などで場面の様子をつかんだりして、登場人物の気持ちを的確に想像させたい。また、ペアの活動を入れることで、どの児童も自分の考えの足場をもち、自分なりの表現ができるようにしたい。そして、並行読書の言語活動を位置付けることで、読書の楽しみや幅を広げたいと考える。

4 研究内容との関わり

【研究内容1 単元指導計画の工夫】

年間の系統性を明確にし、単元を貫く課題や出口の言語活動に向かって読み進められるような単元指導計画を作成する。

「単元（読むこと領域）における文学的文章と言語活動との関連」

	単元名・教材名	ねらい	着目する言葉	単元を貫く課題	単元を貫く言語活動
1 学 期	はなのみち	◎語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。	・人物の行動 ・挿絵	言葉のまとまりに気を付けて、はっきりと読もう。	音読を発表しよう。
	おむすびころりん	◎語や文としてのまとまりや内容、文のリズムに注意しながら声に出して読むことができる。	・場面の様子 ・繰り返し	お話を思い浮かべ、リズムに乗って読もう。	リズムに乗って、音読発表しよう。
	おおきなかぶ	◎繰り返しの言葉や文章のリズムを生かして、音読をすることができる。	・場面の様子 ・繰り返しの言葉 ・人物の行動	場面の様子や人物の動きを想像し、繰り返しやリズムに気を付けて読もう。	発表の仕方を考えて、みんなでお話を楽しもう。
2 学 期	おはなしを たのしもう ゆうやけ	◎登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むことができる。	・人物の行動と会話	人物の行動を想像して読み、自分と比べて思ったことを話そう。	好きなところを選んで音読で発表しよう。
	こえにだしてよう くじらぐも	◎場面の様子を想像し、その様子が表れるように声に出して読むことができる。	・子ども達とくじらぐもの会話 ・人物の行動	場面の様子や登場人物の気持ちを想像し、声に出して読もう。	選んだ本の好きなところを学年の仲間に音読で紹介しよう。
	本はともだち 本をえらんでよう ずうっと、ずっと、 大すきだよ	◎読みたい本を選び、登場人物の行動を中心に想像を広げ、好きなところを見付けながら読むことができる。	・エルフの様子の変化とぼくの気持ちの変化 ・人物の行動	好きなところや、おもしろいところを見付けながらお話を読もう。	「お話の本カード」を書いて好きな本をみんなに知らせよう。
	おはなしをたのし もう たぬきの糸車 すきなところをさが てよう だってだての おばあさん	◎場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げ、お話を楽しみながら読むことができる。 ◎場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げ、好きなところを見付けながら楽しく読むことができる。	・場面の様子 ・人物の行動 ・おばあさんとねこの会話 ・おばあさんの行動	想像を広げて読み、好きなところを工夫して音読しよう。 おばあさんがしたことを確かめながら、好きなところをさがして読もう。	好きな場面を選んで、工夫して音読発表をしよう。 お話の一番好きなところとわけをカードに書いて紹介しよう。

【研究内容2 児童が楽しく学べる指導過程の工夫】

(1) ユニバーサルデザインの3つの視点を明確にした指導過程

焦点化	視覚化	共有化
○音読の工夫を会話文に絞り、登場人物の気持ちに気付かせる。 ○深めの発問で、同じ言葉でも気持ちによって音読の仕方が変わってくることに気付かせる。	◎動作化や役割読みをして場面の様子や子ども達の気持ちをつかむ。 ○みんなで考えた音読の工夫の仕方が分かるように板書に位置づける。	○ペアで主人公の気持ちを考えることで全員が自分の読みの足場をもつ。 ○モデル班の音読を聞くことで音読の工夫の仕方を知り、自分の音読を改善させることができる。

(2) 学習状況に応じた支援

- ・拡大したワークシートを黒板に掲示し、教師も児童と同じように書き込み、どの児童も書けるようにする。
- ・音読の工夫が分からない児童のために、工夫の良さをモデル児童の音読で示す。

5 単元目標

場面の様子を想像し、その様子が表れるように声に出して読むことができる。

読(1)アウ

6 指導計画(全10時間)

<単元を貫く課題>

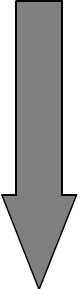
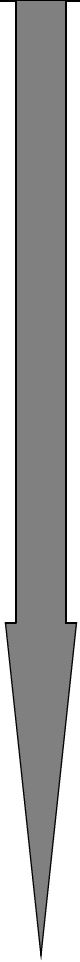
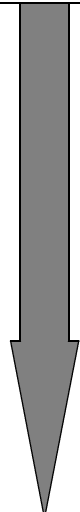
場面の様子や登場人物の気持ちを想像し、声に出して読もう。

<単元を貫く言語活動>

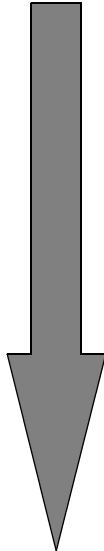
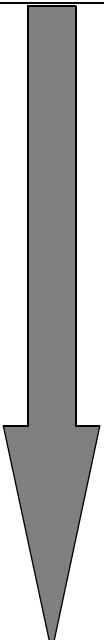
選んだ本の好きなところを、学年の仲間に音読で紹介しよう。

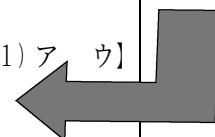
時数	ねらい	学習活動	評価規準
一 次	1 学習を見通し、学習課題への意欲をもつとともに、読書への関心を高めることができる。	1 題名から、どんなお話か想像する。 <u>「くじらぐも」でどんなべんきょうををするのかをしり、がくしゅうのめあてをもとう。</u> 2 教師の範読を聞き、初めの感想を交流する。 3 本単元の学習のねらいである、場面の様子を読み取り、それが聞く人に伝わるように工夫して音読していくこと、単元の終末に、作者の他の物語の好きな場面を見つけ、2組と音読して紹介し合うことが分かる。 4 作者の他の本の紹介を聞き、読書への関心を高める。	学習の見通しをもち、学習課題を理解して、これからの学習に意欲をもっている。 【関・意・態】
	2 「くじらぐも」を楽しんで読み、大体のあらすじをとらえて学習計画を立てることができる。	<u>「くじらぐも」のがくしゅうけいかくをたてよう。</u> 1 登場人物、時、場所の設定を確認する。 2 挿絵を並べ、話の順番と大体の内容を捉え、場面分けをする。 3 児童の言葉から場面ごとに小題をつけ、毎時間の学習計画を立てる。	大体のあらすじを捉え、物語を楽しんで読もうとしている。学習計画に意欲的に取り組もうとしている。 【関・意・態】
二 次	3 くじらぐもの行動を表す文に着目し、くじらぐもや子ども達の行動を動作化したり、子ども達の会話文の意味を考えさせたりすることを通して、子ども達のまねをするくじらぐもの様子やくじらぐもに好意をもつ子ども達の気持ちに気づき、音読で表現すること	1 挿絵から本時の場面を確かめる。 <u>たいそうをする子どもたちと、まねをするくじらのようすがつたわるように、こえにだしてよう。</u> 2 第1場面を音読する。 3 子ども達の会話文「あのくじらは、きつとがっこうがすきなんだね。」を視写し、くじらがまねをする様子に着目する。 4 子ども達とくじらに分かれて行動を動作化して場面の様子をつかむ。 5 まねをするくじらの様子が表れるように班で音読の練習をし、全体交流をする。 6 くじらに好感をもつ子ども達の気持ち	場面の様子や登場人物の気持ちを想像し、まねをするくじらぐもの様子が分かるようにくじらぐもの行動を強調して音読したり、くじらぐもに好意をもつ子どもになり切って気持ちを考えて音読したりしている。

出口の活動への意欲をもつ

二 次		ができる。	ちを、想像する。 まねをするくじらを見て、子ども達はどんなことを思ったのだろうか。 「あのくじらは、きっとがっこうがすきなんだね。」の後言ったことを、ペアで考えて全体交流をする。 7 子どもたちになり切って、会話文を気持ちを考えて全員で音読をする。	【読(1)ア ウ】	 1 場 面 の 音 読
	4	子ども達と、くじらぐもの会話文に着目して、動作化を入れて役割読みすることを通して、子ども達とくじらぐものが呼びかけ合う様子や、雲のくじらに飛び乗る決意を固めて張り切る子ども達の気持ちに気づき、様子を想像して音読で表現することができる。	1 前時を振り返り、挿絵から本時の課題をつかむ。 子どもたちとくじらぐものよびかけあうようすがつたわるように、こえにだしてよう。 2 第2場面を音読する。 3 子ども達とくじらぐもの呼応に着目させるために、主語を確かめて、会話文を視写する。 4 動作化を入れた役割読みをして場面の様子をつかむ。 5 呼びかけ合う様子が表れるように班で音読の練習をし、全体交流をする。 6 雲に乗ろうと張り切る子ども達の気持ちを想像する。 子ども達は、「よしきた。くものくじらにとびのろう。」の後にどんなことを話したのだろうか。 「よしきた。くものくじらにとびのろう。」の続きに言った言葉をペアで考えて、全体交流をする。 7 同じ言葉でも、話す人の位置や様子によって読み方の速さ、大きさ、間を変えるとよいことを意識して、全員で音読をする。	場面の様子や登場人物の気持ちを想像し、子ども達とくじらぐもの会話文をお互いに呼びかけるように音読している。 【読(1)ア ウ】	 2 場 面 の 音 読
	5	「天までとどけ、一、二、三。」や「もっとたかく。もっとたかく。」などの繰り返される会話文に着目して、ジャンプする子ども達の様子を動作化したり、会話文の読み方の違いを考えて音読を工夫したりすることを	1 前時を振り返り、挿絵から本時の課題をつかむ。 くじらにのろうとする子どもたちと、それをおうえんするくじらのようすがつたわるに、こえにだしてよう。 2 第3場面を音読する。 3 会話文の読み方の違いに着目させるために、子ども達とくじらぐもの会話文を視写する。 4 手をつないだつもりで、ジャンプする動作化して場面の様子をつかむ。	場面の様子や登場人物の気持ちを想像し、会話文をだんだん大きく強くするなど、声の大きさや強さを工夫して音読している。 【読(1)ア ウ】	

二 次		通して、雲に跳び乗りたい気持ちがどんどん強くなる子ども達や応援に力が入っていくくじらの気持ちに気づき、様子を想像して音読で表現することができる。	5 3回目の「天までとどけ、一、二、三。」はどんな気持ちかペアで考えて全体交流する。 6 「天までとどけ、一、二、三。」の読み方の違いを班で考えて練習し、全体交流する。 「天までとどけ、一、二、三。」は、三回とも同じ読み方だろうか。 7 同じ言葉でも、気持ちによって、強さや大きさを変わるとよいことを意識して全員で音読をする。		3 場面 の音読
	6	挿絵や、くじらぐもと子ども達の様子や空の様子が分かる文、行った場所が分かる言葉に、着目し、くじらぐもと空の旅をする子ども達の台詞を考え、それを仲間と劇にして表す活動を通して、くじらぐもと楽しく空の旅をする子ども達の様子を想像し、音読で表現することができる。	1 前時を振り返り、挿絵から本時の課題をつかむ。 くじらぐもとたのしく空のたびをする子どもたちのようすがつわるように、おんどくしよう。 2 第4場面を音読する。 3 くじらぐもと子ども達の様子や、空の様子が分かる文や行った所が分かる言葉を視写し、挿絵と繋げたり、挿絵で確かめたりしながら、場面の様子をつかむ。 4 子どもになって、旅の様子やそのときの気持ちを想像する。 子どもたちは、雲の上でどんなことをし、どこに行き、何を見たのだろうか。 子どもの一人になって、雲の上でしたことや行った場所で見たものとその時思ったことを想像してペアで吹き出しに書く。 5 班で雲に乗った子ども達になって、台詞を言い劇にして発表する。 6 楽しい気持ちで話しかけるように台詞を言いながら、全員で音読をする。	場面の様子や登場人物の気持ちを想像し、空の旅をする子ども達の台詞を付け足して楽しく音読している。 【読(1)ア ウ】	4 場面 の音読
	7	別れるときの子ども達とくじらぐもの会話文に着目し、子ども達とくじらぐものが別れる場面を動作化したり、「さようなら。」と言った後の台詞を吹き出しに書いたりすることを通して、くじらぐもと別れるとき	1 前時を振り返り、挿絵から本時の課題をつかむ。 わかれる子どもたちとくじらぐものようすがつたわるように、くふうしておんどくしよう。 1 第5場面を音読する。 2 別れるときの様子が分かる会話文や大事な言葉を視写する。 3 動作化を入れて役割読みをし、場面の様子をつかむ。 4 空の旅が、どれだけ楽しいものであ	場面の様子や登場人物の気持ちを想像し、子ども達やくじらぐもの台詞を付け足して音読している。 【読(1)ア ウ】	

二 次		の子ども達の楽しかった気持ちや感謝の気持ちに気づき、それが表れるように音読することができる。 ったかを先生の言動から考えさせる。 先生は、腕時計を見て、どうして驚いたのだろうか。 4 「さようなら。」と手をふった後、子どもたちが言った言葉をペアで想像して吹き出しに書き、全体交流する。 5 「げんきよく」の様子からくじらが子どもたちに伝えたいことを、みんなで考える。 6 別れの場面の様子が伝わるように別れの会話文に台詞を加えて班で音読の練習をする。 7 驚いたから、びっくりしたように先生の会話文を読むとよいことを意識して全員で音読をする。		 5 場面 の音読
	8	作者の他の作品で、同じ作品を選んだ友達と班になり、紹介したい場面を決めることができる。 すきな本の1ばんすきなばめんを、だれとどこをよむかをきめよう。 1 同じ本を選んだ友達と班になり、それぞれ、自分の好きな場面を発表し合う。 2 1番紹介したい場面を話し合って決める。 3 読むところを分担して、練習する。	場面の様子や登場人物の行動について、好きなところを見つけながら読み、一番紹介したい場面を考えている。 【読 関】	
三 次	9	役に分かれて読み方を工夫し、それを交流して、音読の練習をすることができる。 しょうかいしたいばめんのようすや、しゅじんこうのきもちがよくつたわるように、おんどくのれんしゅうをしよう。 1 自分の役の音読を工夫する。 2 紹介したい場面の様子がよく伝わるか、互いに助言し合う。 3 助言をもとに、場面の様子がよく伝わるように何度も音読の練習をする。	好きな場面の様子や主人公の気持ちがよく伝わるように、音読を工夫して練習している。 【読(1)ア ウ】	 好きな本の1番好きな場面を音読で紹介する。
	10	選んだ本の好きなところを音読で紹介し合い、友達の紹介を聞いた感想を交流することができる。 おすすめの本の1ばんすきなばめんを、おんどくでみんなにつたえよう。 1 班ごとに、好きな場面を音読で発表する。 2 お互いの音読の良かったところと読んでみたい本を発表する。 3 学習を振り返り、お話の音読を楽しむことができるようになったことを確かめる。	好きな場面の様子がよく伝わるように、声に出して読んでいます。 【読(1)ア ウ】	



7 本時のねらい

「天までとどけ、一、二、三。」や「もっとたかく。もっとたかく。」などの繰り返される会話文に着目して、ジャンプする子どもたちの様子を動作化したり、会話文の読み方の違いを考えて音読を工夫したりすることを通して、雲に飛び乗りたい気持ちがどんどん強くなる子ども達や応援に力が入っていくくじらの気持ちに気付く、様子を想像して音読で表現することができる。

8 本時の展開(5/10)

	学 習 活 動	○指導・援助(◎重点)◆評価規準
つかむ	1 前時までの学習内容を振り返り、挿絵から本時の課題をつかむ。 ・子ども達は、くじらぐもに乗ろうとはりきりました。 ・雲に飛び乗る場面です。 くじらにのろうとする子どもたちと、それをおうえんするくじらのようすがつたわるように、こえにだしてよう。	○掲示を使って前時の場面を想起できるようにする。 視覚化 ○手をつないで空にふきとばされる先生と子どもたちの挿絵からくじらぐもに飛び乗る場面であることを確認する。 視覚化 ○本時の学習範囲の内容を確かめるために音読する。 ○会話文を書き込むプリントを用意する。 焦点化
考える	2 本時学習する場面を音読する。 3 会話文の読み方の違いに着目させるために、子ども達とくじらぐもの会話文を視写する。 「天までとどけ、一、二、三。」 「もっとたかく。もっとたかく。」 4 全員で動作化して場面の様子をつかむ。 ・みんなで手をつないで、丸い輪になっているから、一緒に乗りたいと思って力を合わせている。 ・「天までとどけ、一、二、三。」と3回言っている。 ・1回目は、三十センチぐらいしか跳べなくて、次も五十センチぐらいでちょっと伸びたが、ぜんぜん届かない。でも、3回目に乗れた。 ・くじらも一生懸命応援してくれた。	○「」の書き方を確かめる。 ○子ども達の様子をつかませるために、教師が地の文とくじらを読み、児童が子ども達になって音読する。 ○30センチ、50センチのテープを見せて高さを実感させる。 ◎動作化してどの児童も様子がつかめるようにする。 視覚化
深める	5 「天までとどけ、一、二、三。」の読み方の違いを班で考えて練習する。 「天までとどけ、一、二、三。」は、3回とも同じ読み方でしようか。 ・跳び乗りたいという気持ちが強くなっていくから、だんだん大きく読みたい。 ・くじらの応援も力が入るから、「もっと たかく。」も、2回目は大きくしよう。 ・動作を入れて読もう。	○同じ言葉でも様子や気持ちの違いによって音読の仕方を変えるとよいことに気付く。 焦点化 ○工夫のよい班を前に出し、工夫とそのわけを発表させる。モデルにして、みんなでやってみる 共有化 ○みんなで考えた音読の工夫の仕方が分かるように「天までとどけ、一、二、三。」の言葉をだんだん大きくして黒板に貼り、丸の大きさで声の大きさを示す。 視覚化 ○読みの足場をもつためにペアで考える。
まとめる	6 3回目の「天までとどけ、一、二、三。」はどんな気ちで読んだらよいかペアで考え、全体交流する。 ・「今度こそ、絶対跳ぶぞ。くじらさん、今行くよ。」という気持ちで一番強く大きく読む。 7 本時のまとめをし、学習を振り返る。 (音読の工夫) 子ども達… 跳び乗りたい気持ちがだんだん強くなるから、だんだん大きく読む。3回目は絶対乗りたい気持ちで、1番大きな声で強く読む。 くじらぐも… 子ども達と遊びたいので、どんどん応援に力が入るから、2回目の方が大きな声で絶対乗ってほしい気持ちで強く読む。	○「50センチまでしか跳べなかったのに、跳び乗れたのは、どんな気持ちで跳んだからでしょう。」と補助発問をする。 ◆評価規準 場面の様子や登場人物の気持ちを想像し、会話文をだんだん大きく強くするなど、声の大きさや強さを工夫して音読している。 【読(1)ア ウ】 ○クラス全員で手を繋ぎ、丸い輪になり、1年2組の子ども達になって読むために、広いワークスペースに移動して読む。
	8 学習したことをもとに、全員が1年2組の子ども達になって本場面を動作をつけて音読する。	

